

本を選ぶ



高校図書館版



NO.78 2024年(令和6年)11月20日
<https://www.las2005.com>

●発行/ライブラリー・アド・サービス
〒114-0002 東京都北区王子 4-23-4 TEL=03-6908-4643

●●●●●ろん・ぼわん●●●●●

高校図書館は「未知への入口」

大森和夫・大森弘子

振り返ると、「高校図書館」は、単なる「書籍の宝庫」ではなく、若者が、「未知の世界」へ歩み出すための「人生の夢と希望の入口」でもある。

私ども夫婦は、世界の日本語学習者と「日本語交流」を36年間続けた。和夫が記者の時、海外からの留学生から、「日本が嫌いになったり、日本に不満を持ったまま帰国する留学生が多い」という話を聞いて、日本にとって大きな損失だと痛感した。世界の日本語学習者に日本と日本人のことを、もっと知ってもらい、理解を深めてもらって「日本ファン」になってほしい、と考え、1989年(平成元年)1月に和夫が新聞社を中途退社し、「活字の力を活かした交流活動を!」という弘子の考えで、自宅四畳半を拠点に《夫婦で、世界と日本語交流活動》を始めた。

1.「日本語」を読んで「日本」を知ってもらうために

独自の日本語教材『日本』(各版)を作成し、計約80万7千部を、中国を中心に海外の大学等に寄贈。日本語教材【日本】という国を、国際交流研究所ホームページで電子書籍として無料公開した。(HP：<http://www.nihonwosiru.jp/>)

2.「日本語の作文」を書いて、日本理解を深めてもらうために

世界の日本語学習者を対象に計26回の『日本語作文コンクール』を主催。92カ国・地域から6

万2,726編(句)の応募があった。その中から、「日本と日本人に対する熱い思い」が込められた「72カ国・地域の119編(句)」を選んで、『素顔のニッポン』(朝日新聞出版)を出版した。

36年間の活動で痛感したことは、海外の日本語学習者の「日本と日本人への熱い視線」が「単なる憧れ」ではない、ということ。「外国文化に親しむ、国際性を持った若者を育ててほしい」(アメリカから東京大学大学院への留学生 29歳)、「千葉大学に留学していた時に見たのは、経済的に豊かな(夢の国)で(遊ぶ)学生の姿だった。大学の授業では居眠りをし、活気のない彼ら」(インドの大学生 24歳)。いずれも2018年の第23回「作文コンクール」から。

日本の若い人たち、特に高校生に、世界の若者が、「日本と日本人」をどう見ているか、を知ってほしいと思い、2024年9月に『素顔のニッポン』を全国の約3千の高校に寄贈、国際交流研究所HPでは電子版を公開。なお、2020年に『ユニークな「日本文化」論』を、2021年に『俳句と日本語の夢』(いずれも、朝日新聞出版)を、それぞれ全国の高校約2千校に寄贈した。

「生徒の日本語理解を大きく高めます」(福島県・帝京安積高校)、「本校の教育活動のため、広く活用していきます」(東京都・中央大学杉並高校)、「生徒たちが、世界へ目を向けるきっかけになる貴重な本」(長崎県・清峰高校)など、多くの高校の校長、司書の方から礼状が届いている。「未知への入り口」である高校の図書館が、より多くの高校生を引き付ける場であってほしい。

(おおもりかずお・おおもりひろこ:国際交流研究所)

高校図書館に育てられて ～学校司書として40年、そしてこれから～

木下 通子

1 『本を選ぶ高校図書館版』とわたし

読書の秋ですね。みなさん、いかがお過ごしですか？学校図書館も読書週間にあわせて、11月はいろいろとイベントをされていると思います。

うちの学校では、ノーベル文学賞に選ばれたハン・ガンさんのファンの先生がいて、その先生が書いた紹介を付けて、ハン・ガンさんのコーナーを作ったり、「背表紙川柳」という本の背表紙をくっつけて川柳を作るイベントを行いました。

実は私は2025年の3月に定年退職を迎え、40年お世話になった学校図書館の現場から離れます。いままでのお礼も兼ねてそのことを本誌『本を選ぶ高校図書館版』編集部にお伝えしたら、「いっぱい連載していたし、最後に原稿を書いたら？」と言っただき、お言葉に甘えてこの原稿を書かせていただくことになりました。なお、『本を選ぶ』は公立図書館や大学図書館を対象とした月刊『本を選ぶ』、姉妹誌としてそれぞれの学校図書館を対象とした『本を選ぶ高校図書館版』『本を選ぶ中学校版』『子どもの本を選ぶ小学校版』があります。

さて、『本を選ぶ高校図書館版』が創刊されたのは1986年5月で、私が学校司書になって2年目の春でした。創刊号の巻頭ページは、『わいふ』という雑誌の編集者 鈴木由美子さんの「高校生のこころをつかむ本を」。2頁から、埼玉、東京、岡山の学校司書のコラムが掲載されるという豪華な内容で、選書ツールがあまりなかった時代に、高校図書館に特化した『本を選ぶ高校図書館版』が創刊されたことに、先輩司書がとても喜んでいたので覚えています。

折しも私は、学校図書館問題研究会の先輩方と、「学校図書館に「人」を置く運動」に力を入れ始めた頃で、埼玉支部の仲間と「小・中学校図書館聞き書き調査」を行い、そのことを1990年5月に発行された『本を選ぶ高校図書館版』第9号に書かせていただきました。これが『本を選ぶ

高校図書館版』で最初に掲載された原稿です。

まだ20代だった私は元気とやる気だけはあったのですが、読み手に伝わる原稿を書く力がなく、編集部のみなさんにダメだしをされ、また、書き直しか…と落ち込みながら、何度も文章を書き直したことを覚えています。

その後、当時まだ珍しかったコンピュータを図書館に導入するという話を近況報告したら、コンピュータ導入記を連載してみたら、と提案されて1992年に発行された第14号～1997年の第24号に、初任校である埼玉県立岩槻商業高校図書館でのコンピュータ導入のドタバタを書いた「私のコンピュータ導入奮戦記」を11回に渡って連載しました。

いまではコンピュータを使って蔵書管理や貸出をするのは当たり前ですが、当時はデータの遡及入力をするのも一冊一冊手入力。国立国会図書館のデータをまとめたJBISCがCD-ROMになって発売されて、学校に高いお金を出してもらってコンピュータを導入しました。コンピュータ導入は珍しかったからか、この連載の反響は大きかったのですが、第24号の最後に第一子出産のために産休に入りますと書いていて、産休に入るためにマニュアルを作らなくちゃというところでこの連載はおしまいになり、なんと、1998年5月の第25号から2002年11月の第34号まで、「スタッフマニュアルを作ろう」の連載が始まりました。

連載で取り上げた項目は、「図書館オリエンテーション」「図書部会」「授業連携」「ブックトーク」「引継書」「書架整理」「本の整理の流れ」で、途中、岩槻商業高校から春日部東高校に転勤し、転勤のドタバタも赤裸々に書き込みました。その上、春日部東高校に着任してすぐに第三子を授かり、なんと三度目の産休・育休に。復帰して、第37号から第45号まで春日部東高校での取り組みを書かせてもらいました。2017年に春日部女子高校での活動をまとめた『読みたい心に火をつける！』（岩波ジュニア新書/2017年）を出版し、2023

年に浦和第一女子高等学校の活動をまとめた『知りたい気持ちに火をつけろ!』（岩波ジュニア新書/2023年）を出版できたのは、『本を選ぶ高校図書館版』に実践を連載させてもらっていたからだ、本当に感謝しています。



2 埼玉の学校図書館

私が埼玉県に新任として採用された1980年代は、小・中学校図書館にはほとんど学校司書は配置されていませんでした。高校図書館には、行政職採用と実習助手採用の司書が配置されました。私の勤務している埼玉県では1975年に県立図書館と一括で司書の専門職採用が始まり、1979年に全日制高校への司書全校配置が実現。私は1985年に司書として埼玉県に採用されましたが、当時はなんでもアナログで、インターネットが普及していない時代だったので、最初の頃の新着図書案内は、ガリ版印刷していました。（ガリ版がわからない方は検索してくださいね）

もちろん、目録カードも手書きで書いていて、カードコピー機がない学校は、一冊の本を整理するのに、書名目録、著者名目録、件名目録と3枚のカードを書いて、図書原簿を書いて、ラベルを書いて貼ってブッカーをかけるという作業をしていました。本の整理をするのに、時間がたくさんかかった時代でした。当時はまだ、土曜日に隔週で午前中授業があり、土曜の午後は各地区で自主勉強会をやっていました。私の地区はブックトークの勉強会をやっていて、先輩方に本も紹介してもらえるし、困ったことを相談できるしで、その勉強会に行くのが楽しみでした。

いまは、メールや、もっと親しくなればLINEでなんでも聞ける時代ですが、当時はパソコンもFaxもなく、図書館に外線電話もなかったので、困ったことを相談したり、求本依頼も事務室に降りて電話を借りる状態で、事務室で図書館の話や生徒の話のいろいろとしていました。好むと好ま

ざるにかかわらず、図書館の仕事の見える化ができていたのかもしれませんが。

現在、埼玉県には約140校の県立高校があり、県内に17の拠点校を置き、拠点校に担当部長を配置し、ネットワーク活動を行っています。各ネットワークでは学期に一回、会議を持つことができ、研修や巡回展示など、一人職種だとなかなかできない活動をしています。

埼玉県では1980年代から埼玉県内のいくつかの地域で、合同蔵書目録を編纂したり、協力車を回して本の貸し借りをする自主ネットワーク活動をさかんに行っていました。現在のネットワーク活動は、「県立学校間ネットワーク」として埼玉県が推奨している活動ですが、地域で行っていた草の根的な活動を県がくみ上げていまの形になりました。埼玉県では2006年からISBNコードで各校の蔵書を検索できるISBN総合目録が稼働していて、2011年には埼玉県高等学校図書館研究会（以下、「高図研」）が、「会員校図書館の相互協力に関する協定」を結び、高図研会長が校長会で協定について説明し、全県的な制度が確立しました。2020年には、カーリルと連携協定を結んだ県立学校間蔵書横断検索「こうとけんさく」の運用が開始され、より一層、利便性が向上し、全県310万冊を超える蔵書の検索が可能となりました。活動の濃さは地域によって様々ですが、定期的に協力車を回し、本の貸し借りをする物流を伴う地区の活動はより活発になっています。

埼玉県も2000年から12年の間採用試験が中断されましたが、採用試験が再開されてから、試験は毎年継続して行われ、いまでは若い司書が大勢活躍しています。たまたま新人が多く着任する地域では、新人司書のサポートを手厚く行えるようにネットワークの活動プログラムを組んでいます。また、公的な研究会である高図研では、ポータルサイトを設けて、情報交換をできるようにしています。蔵書点検初めてやるので、どこかで体験させてくださいと新人司書が書き込めば、うちの学校、〇〇日なのでどうぞー。と返信があります。

司書の採用は県立図書館と学校と同採用なので、研修も合同で行われる研修と、学校独自の研修があります。近年、県立図書館と学校の人事異

動も活発に行われるようになってきましたが、その要因の一つは司書の5年次研修が合同で行われるようになったからでしょう。県立図書館の司書に高校図書館を体験してもらい、高校図書館の司書には県立図書館のお仕事を体験してもらうというプログラムが組まれています。

3 司書の仕事を知ってもらうために

司書として働く中で意識してきたことの一つに、教育委員会など行政や学校の先生に司書の仕事を知ってもらうということがあります。このきっかけとなったのが、埼玉県総合教育センターの「読書活動推進講座」でした。埼玉県総合教育センターでは、一般県民に向けて「読書活動推進講座」を行っていて、私はここ10年近く、「読書活動推進講座」の講師を務めています。また、埼玉県教育委員会主催の「彩の国高校生ビブリオバトル」の運営に、ビブリオバトル普及委員としてかかわっており、ビブリオバトルを担当していた指導主事が、埼玉県総合教育センターに異動された際に、学校図書館の活動を先生方にも知ってもらいたいからと声をかけていただき、2019年から国語の5年次研修の講師をするようになりました。

国語の先生方には、「学校図書館の機能と役割」について、2016年に定められた「学校図書館ガイドライン」について解説し、ワークショップとして、新書「点検読書」を体験してもらっています。「点検読書」については、拙著『知りたい気持ちに火をつける!』で細かく解説しましたが、研修を受けた先生方が自校に帰って自分の学校の司書とやってみたいと思えるような研修にすることを心がけています。「点検読書」をするために、自分の学校の図書館から新書を借りるという事前課題を出しますが、その際にも高図研のポータルサイトを活用し、司書に協力を呼びかけています。先生が本を返却に来た時に、授業連携につながるというと思っています。

当たり前のことですが、学校の中心は教科で授業をされる先生です。自校の生徒の様子にあわせ授業準備をし、毎日授業をするのはとても大変なことだと思います。授業だけでなく、校務分掌の仕事、部活動の仕事など、先生方はいつもなにか

に追われて、息つく暇がなさそうです。そんな先生たちの役に立てる図書館でありたい。私たち司書が支えられるのは、やはり授業です。授業で利用したいと思える学校図書館になるために、古い本を廃棄し、新鮮な本を受け入れ、わくわくする図書館でありたいと活動して来ました。

4 社会教育士として

2018年に浦和第一女子高等学校に転勤して、生徒の違いに驚きました。それまでもいわゆる進学校に勤務していましたが、生徒の意識が格段に違うのです。家庭科で絵本について学ぶ授業で絵本の紹介をしたころ、名作絵本を紹介したらほとんどの生徒が「小さい時に読んでもらった」「読んだことがある」と答えてくれました。ところが、司書仲間の学校で同じような絵本を提示したら、「知らない」という生徒が多く、びっくりしたそうです。

本校の生徒で本を読むのが苦手という生徒でも、内容が理解できないわけではありません。ところが、いま、本が読めない。マンガが読めない。(内容を理解できない)子どもたちが増えていると聞きます。

私が子育てしていた2000年代は、いまのようにスマートフォンが普及していませんでした。ところが、いまは、赤ちゃんの時からスマートフォンで動画を見る時代です。昔は読書は娯楽でした。でも、いまは違います。スマートフォンがあればなんでもできるし、家に一冊も本がない家庭が増えていると聞きます。経済的な格差だけでなく、親の意識の格差も広がり、子ども達も大人が意識しないと本が身近にない時代となりました。

そこで、退職後、私がやりたいと思っているのは、子どもの居場所に新しい本を置く活動です。

子ども食堂やフリースクール、地域で子どもが居場所としているところに、新しい本が定期的におかれ、本の読み方や楽しさを絵本専門士などの本の専門家と作っていきける仕組みを作りたいと思っています。退職後、すぐにこの活動が形になるとは思っていません。なので、最初は個人事業主となり、非正規の学校司書や学校の探究活動支援、書店や出版社、公共図書館と学校をつなげる仕事

を中心に自分の足固めをしていきたいと考えています。

また、埼玉県で若者が引き継いでくれた「高校司書のイチオシ本」の活動を、いろんな地域に広めたい。現在も、岡山、京都、神奈川などの高校司書がその年にでた本のランキングを決めて、書店などとコラボしてフェアを開催する活動が生まれてきていますが、もっとたくさんの自治体でこの活動をしてほしいのです。高校生年代の本の専門家である高校司書が、その年にでた本のランキングを発表するというのは、市民のみなさんに司書の専門性を知ってもらうきっかけになるからです。

いままでは、学校という場があって、そこに生徒がいました。生徒に本を薦めて、本の話ができるのは、なんと幸せだったのか。図書委員の生徒とワイワイ活動した委員会行事、先生方との授業連携。文化祭や体育祭。学校には四季があり、若い生徒と交流することでいつも新鮮な学びがありました。専門職としての学校司書は一人ですが、成長する有機体としての図書館を生徒や先生と創っていけることが楽しくて、次はこれをやってみよう、来年はこれに挑戦しようと、いつも考えて過ごしていました。いよいよ3月までカウントダウンがはじまりましたが、現場が無くなる、学校に出勤しなくなる自分がまだ想像できません。

現場が無くなるのがさみしいと思える環境で仕事をして来られたことは、生徒に恵まれ、先生に恵まれ、仲間にも恵まれたからだと本当に感謝しています。新しいスタートを切ることには不安はありますが、これからはいままで受けたご恩を次に送る活動をしたいと思っています。

私は小さい時から本に助けられて生きてきました。歌を歌ったり、絵を描いたりすること。芸術やスポーツと同じように、本は生きるチカラを与えてくれます。子ども達、特に小学校低学年の子ども時代に、本とよい出会いをし、読書の楽しさを知ることができたら、人生の中で困難なことが起きても、その子の人生を本がきっと助けてくれます。いままでは高校図書館というフィールドでしたが、次のステージは地域で子どもと本をつなぐ活動をしていきます。微力ですが、オンラインなどを活用し、学校図書館の学びの場も続けます。これからもよろしくお願ひします。

みちねこサイト



(きのした みちこ：埼玉県立浦和第一女子高等学校司書)

DMかたろく

日本で初めてのゴスペルの教科書！

みんなでゴスペル！
学校で、サークルで、お家で

山本 愛 / 編著 ●A4判 / 80頁 / 定価：本体 2400円 + 税



※お手本と伴奏のCD音源付き。

記録媒体もない時代に人から人へ歌い継がれてきた古い時代のシンプルで力強い歌。その中から8曲を選び楽譜として収録しました。すぐに覚えてみんなで歌え、歴史も学べる入門書。子ども達と著者の長年のゴスペル体験から生まれた本です。



朔北社

〒191-0041 東京都日野市南平 5-28-1-1F
TEL042-506-5350 <http://www.sakuhokusha.co.jp>

Y字路はなぜ生まれるのか？

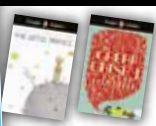
重永瞬 2006年

晶文社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-11
Tel 03-3518-4940 <https://www.shobunsha.co.jp/>

株式会社 三善

PENGUIN社の多読教材
PENGUIN READERS



洋書読み物
セット紹介の
WEBサイトが
オープン!

① 60冊 SET A
セット販売 ② 60冊 SET B

税込 各¥70,400 (本体各¥64,000)



eigo-meisaku.com

英語名作ライブラリー



〒167-0032 東京都杉並区天沼2-2-3

TEL: 03-3398-9163 FAX: 03-3398-9170

地球研叢書



総合地球環境学研究所の
研究・成果を分かりやすく伝え、
人と地球の未来を考えるシリーズ



現在 27 巻刊行、ぜひお揃えください!

定価: 各 2310 円~ 3080 円 (分売可)

図書
出版

昭和堂

〒607-8494

京都市山科区日ノ岡堤谷町3-1

TEL075-502-7500 ※価格10%税込

誰も取りこぼされない社会へ

すき間の哲学



世界から存在しないことにされた人々を掬う

村上靖彦 著

すき間に陥った当事者と支援者の証言の交点、そして社会的理論からその全体像を読み解く。そのうえですき間を生まないオルタナティブな社会の実現へ向けて何が必要なかを議論する。

*四六判上製カバー296頁 2750円



ミネルヴァ書房

京都市山科区日ノ岡堤谷町1

TEL075-581-0296 ※価格税込

宮脇 真彦・楠元 六男・
片山 由美子・小澤 實・
秋尾 敏 編



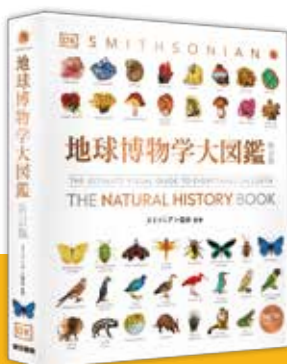
俳句とは何か、
俳句の魅力とは何か。
古典から近現代へと連なる
俳句の歴史、実作・教育まで、
俳句の全体像を体系立てて
示した事典。

B5版 752頁
定価 22,000円 (本体 20,000円)
ISBN978-4-254-51067-6

朝倉書店

東京都新宿区新小川町6-29

〒162-8707 TEL03-3260-7631



**世界最大の
自然博物館 開館!**
生命の驚異的な多様性が
この1冊に!
世界75万部のベストセラー
待望の新訂版

地球生物学大図鑑 新訂版

スミソニアン協会 監修

オールカラー 672頁 定価 11,000円 (税込)

◀詳しい内容はこちらから

東京書籍



第一線で活躍する研究者たちが
日本史研究の
現在と未来に向けた論点を
わかりやすく解説

**日本史の
現在**
全6巻

- 1 考古 設楽博巳編
- 2 古代 大津 透編
- 3 中世 高橋典幸編
- 4 近世 牧原成征編
- 5 近現代 ① 鈴木淳・出陣臣・沼尻亮伸編
- 6 近現代 ② 鈴木淳・出陣臣・沼尻亮伸編



定価 各3,300円(本体3,000円+税10%)



山川出版社

〒101-0047 東京都千代田区内神田1-13-13

TEL 03-3293-8131 FAX 03-3292-6469 https://www.yamakawa.co.jp/